

第25卷・第5号

昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和52年5月1日（毎月1回1日発行）

# 牧草園芸



# タマネギ畠への緑作—I

〈緑肥作物の収量〉

札幌研究農場 上原 昭雄

畠作地帯の地力の低下が広く論議されてから早数年を経過し、昨年の冷害の体験からも寒地農業の営農技術の基本は「土づくり」であることが再認識された訳です。そのための省力的な方法として緑肥作物の導入が急速に広がってきており、その代表的なものが麦類畦間へのアカクローバ緑作の間作でありましょう。また豆類への牧草畦間播種も徐々にではありますが普及して来ています。

そこで今回は北海道で約8000ha作付されているタマネギにしほってその緑作導入試験の概要を御紹介致します。

これらは三笠市役所、空知中央地区農業改良普及所、農協、当社の共同試験で、タマネギは今まで化学肥料の多投による連作で栽培されておりましたが、そのため乾腐病、軟腐病等の病害が多発し、ここでも「土づくり」の必要性が認識され、第1~3表に示す通りの緑作の試験を行ったものです。

第1表はタマネギの苗床に緑作を栽培した成績です。タマネギの移植後に緑作物を播種し、苗床造成前に鋤込みを行いました。例えばリンサンを十分に吸収させた苗は本畠定植後リンサン地力が低くてもその影響は緩和されるとの報告もあり、苗を強健に生育させることが必要であるため、この方法を行なったもので2~3トンの緑肥が確保されました。

第1表 タマネギ苗床における緑作調査成績

(昭50年)

圃 場	供 試 緑 作 名	播 種 日	鋤 込 日	生 草 量 (kg/10a)
三笠市岡山 安藤 宏一 氏	ア カ ク ロ ー バ マ ン モ スイタリアン A } 混播	5 月 25 日	8 月 5 日	2,250
三笠市萱野 谷 賢次 氏	マ ン モ スイタリアン A ア カ ク ロ ー バ	5 月 29 日 "	8 月 12 日 "	2,910 2,175

第2表 緑肥用デントコーンの調査成績

(昭49年)

圃 場	播 種 日	播 種 量	収 穫 日	生 草 · 量
三笠市大里 富田 利明 氏	5 月 下 旬	4 kg/10a	9 月 13 日	8,000 kg/10a

第3表 緑作物のタマネギ畦間播種における成績

(昭50~51年)

圃 場	供 試 緑 作 名	播 種 量	播 種 日	鋤 込 日	生 草 量 (kg/10a)		
					地 上 部	地 下 部	合 計
三笠市岡山 安藤 宏一 氏	マ ン モ スイタリアン B テ ト リ ラ イ ト	2 kg/10a "	8 月 20 日 "	10月21日 翌年4月	3,564 2,414	965 760	4,529 3,174